

小池 清本部長様

## 第 8 回 県議会新型コロナウイルス感染症対策連絡本部会議への要望

2020・9・1 日本共産党県議団 団長 毛利栄子

1、8月に入って陽性者が急速に拡大しており、感染経路がわからない陽性者の増加や無症状の感染者も増えています。無症状の感染者については濃厚接触者として検査する中で陽性確認されることが多いことを踏まえれば、症状のないまま病原体を保有し、市中で生活している人が少なからずいるのではないかと懸念されます。この間、医療機関や福祉施設、学校などで感染者が確認された場合は濃厚接触者以外にも PCR 検査を広げてきていただいておりますし、上田圏域ではクラスターの発生している地域の居住者・勤務者で希望する方には PCR 検査が行われてきていることは感染拡大防止にとって重要なことだと思います。

感染が拡大している他の圏域についても同様の措置を検討いただきたい。また、市町村などで自主的に行う社会的検査について国の支援を求めるとともに、県としての支援もお願いしたい。

2、命を守る最前線で活動している医療機関などでは防護具などの消費量が急速に増えることで医療・衛生資材が不足しています。さらにマスクはコロナ前と比べて10倍、手袋も3～4倍に高騰しており、感染防止対策を実施すればするほど経営が圧迫される状況となっています。県として現場の実態をつぶさに掌握し、医療や介護の現場で不足している資材を確保し、支給していただきたい。また購入費や備蓄に関わる経費の支援をしていただきたい。

3、新型コロナウイルス関連による減収で県内の医療機関・介護事業所は厳しい経営を強いられています。国に対して減収補填を求めていただきたい。支援金などの支給はスピード感を持った対応をお願いします。経営実態がどうなっているか日常的に地域と連携しながら課題を共有している保健福祉事務所の協力も得てつかんでいただき、県としての支援策も検討してい

ただきたい。

4、新型コロナに関わる誹謗や中傷、差別などの人権侵害に対し、知事は当初から会見の場やメディアを通じ発信していますし、「人権対策チーム」をつくり取り組んでいます。さらに強いメッセージを発信していただきたい。

誹謗・中傷を恐れ症状があっても保健所への相談を避けたり、PCR 検査を抑制したりすれば感染拡大防止もできず封じ込めもできない観点からも訴えていただきたい。また、誹謗中傷を受けている当事者の相談に乗るとともにケアに取り組んでいただきたい。